

北海道森林管理局長

着任あいさつ



新局長 上 練三



用のさらなる拡大など、進度の差はあれ、これらを一体的に推進することが現下の課題です。

6月28日付けで、北海道森林管理局長を拝命しました上（かみ）です。初めての北海道勤務で、気候や森林の種類等あらゆることがこれまでに勤務経験した所とは異なりますので、早めに見聞きして状況を把握したいと考えております。

さて、林政全般におきましては、丸太の生産性アップ、造林初期のイノベーショナルによる低コスト化、国産材流通の効率化、木材利

折しも、輸入材不足に端を発する木材需給のひっ迫、木材価格の急上昇等の影響により、国産材供給に対する期待の高まりは顕著になっていきます。北海道内には、豊富な森林資源があります。私ども国有林は、木材供給においても一定の役割を担っており、計画的・安定的供給に努めてまいる考えです。

一方、近年の降雨状態等の変化は道内でも大きな被害につながっています。適切な治山対策等を講じ

るとともに、発生した場合には、地元自治体等と緊密に連携して、緊急対応並びに早期復旧に取り組んでまいります。

また、豊かな自然環境や森林生態系を有している北海道の特徴を永続的に維持していくことも当局の重要な使命です。希少種の動植物の保全・管理や景観の維持等に加えて、自然環境を適正に管理しながら、癒やしの中の提供、さらには、健康、観光、教育といった様々な場に森林空間を活かして新たな価値を創造していくことにも大きなポテンシャルがあることを認識しており、その構築にも貢献してまいります。

コロナ禍を機に、理想的なワークライフバランスを実現できる場として、地方に対する期待は高まっています。そうした変化は、地域がそこにある様々な資源を様々な形で価値に結びつける絶好の機会

と捉えることもできます。道内において、森林・林業・木材産業が重要な位置づけにあることは言うまでもありません。

私どもが、森林管理や林業の現場で培ってきた（培っていく）資源や技術力の活用を通じ、市町村行政を支援することによって、管内の森林・林業・木材産業が発展・持続するよう、貢献してまいります。

また、国産材利用が一層高まるよう、その意義・効果の普及とあらゆるツールによる働きかけを行います。

本誌をご覧いただき、ありがとうございます。引き続き、国有林野の管理経営にご理解・ご協力を賜るとともに、道内の安全・安心の暮らしと地域経済の発展に貢献できるよう、各般の取組を展開してまいりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

● 略 歴 ● 出身地 鹿児島県

昭和 63 年 4 月	農林水産省入省（鹿児島大学卒業）
平成 9 年 8 月	名古屋営林支局 荘川営林署長
平成 21 年 12 月	林野庁林政部林政課広報官
平成 24 年 4 月	秋田県農林水産部森林技監
平成 26 年 4 月	林野庁森林整備部計画課首席森林計画官
平成 28 年 8 月	林野庁森林整備部研究指導課長
平成 30 年 4 月	国立研究開発法人森林研究・整備機構森林整備センター審議役
平成 31 年 4 月	国立研究開発法人森林研究・整備機構理事
令和 3 年 7 月	中部森林管理局長
令和 4 年 6 月	北海道森林管理局長

